

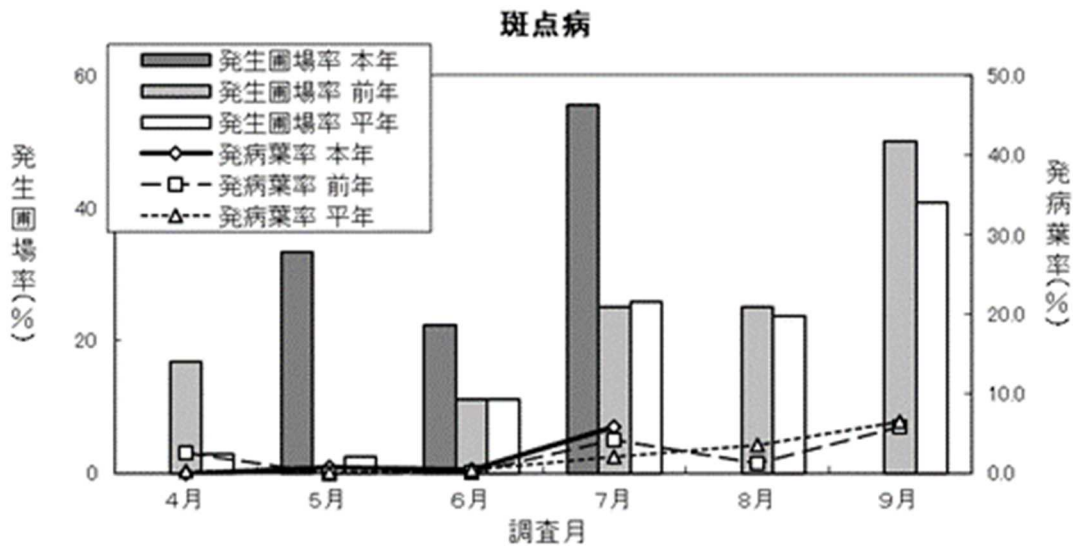
令和 6年 7月 30日
 大分県農林水産研究指導センター
 農 業 研 究 部

ピーマン斑点病の防除対策について

7月中旬に実施した巡回調査では、発生圃場率、平均発病葉率ともに、平年を上回っております。本病は多湿条件を好みますが、1か月予報（7月25日・福岡管区気象台発表）によると、気温は高い確率が80%、降水量はほぼ平年並と予想されています。今後の防除対策の参考にしてください。

1 ピーマン斑点病の予測

7月中旬の調査で、発生圃場率55.6%、平均発病葉率5.8%と平年（過去10年間）に比べ高い発生が確認されています。今後も、発生面積、発生量ともにやや多い状態が続くと予想されています。

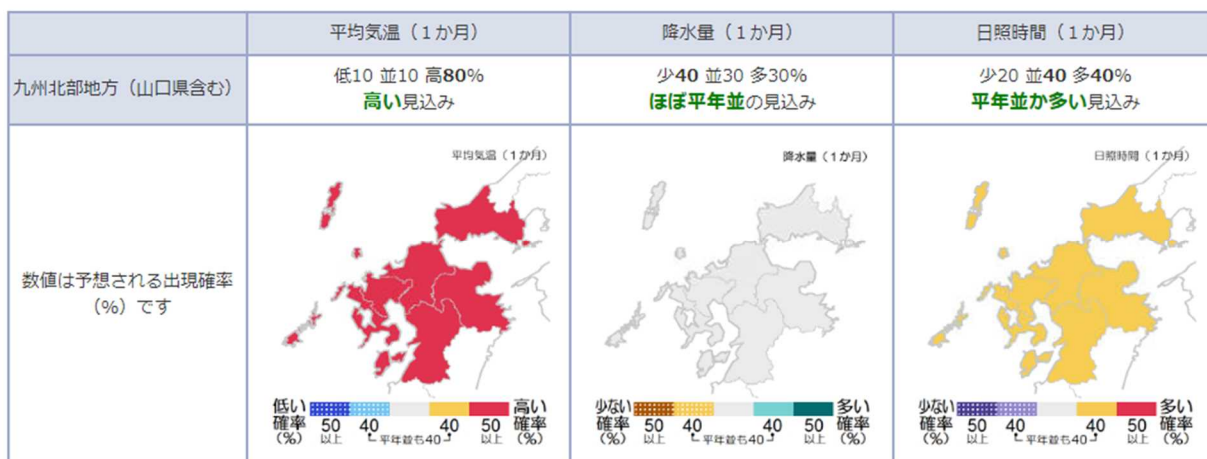


2 今後の気象状況

7月25日に福岡管区気象台が発表した「九州北部地方1か月予報」（7月27日から8月26日まで）は以下のとおりとなっております。降水量は、平年並との予報ですが、本病は多湿条件で発生が助長されるため、注意が必要です。

福岡管区気象台のホームページ

(<https://www.data.jma.go.jp/cpd/longfcst/kaisetsu/?region=010900&term=P1M>) より抜粋。



3 防除上の注意事項

- (1) 一旦発生すると防除が困難になるので、予防散布や初期散布に重点を置くとともに葉裏に十分薬剤がかかるようにしてください。
- (2) 発病初期のうちに治療効果の高い薬剤を中心に、散布間隔を短くするなどして集中的に散布してください。
- (3) 高湿度が発生を助長するので、摘葉や整枝を行い湿度管理に努めてください。
- (4) 本病の被害により落葉した葉はできるだけこまめに圃場外へ持ち出して処分してください。

病害虫対策チームホームページアドレス

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujoshou/>

